

科目名		配電理論			
担当教員	清野 貴久	実務授業の有無	○		
対象学科	電気電子工学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	36時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 配線・配電理論の基本、計算の仕方などををしっかり理解する。 2. 配線設計の基本を理解しする。 3. 第二種電気工事士筆記試験【配線・拝殿基礎理論】対策。 4. 座学→模擬試験→解答と解説を繰り返し行い、合格基準の到達を目指す。				
学習目標 (到達目標)	1. 第二種電気工事士筆記試験の計算問題、配線理論を合格基準に到達させる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①2019年度版 第二種電気工事士筆記試験模範解答集 電気書院 ②オリジナルテキスト・プリント				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	屋内配電の理論 ・送電と配電 ・受電電圧	方法：テキスト①とプリントを使って説明。 屋内配線の概略を理解度を小テストで確認 準備学習：①配電理論 P51～78ページ			
2	配電方式 ・単相二線式 ・単相三線式 ・三相三線式	方法：テキスト①とプリントを使って説明 電気二種筆記試験配電分野問題理解度を小テストで確認 準備学習：①配電理論 P51～78ページ、			
3	屋内配線 ・電線太さの決め方 ・電力損失 ・引込口配線	方法：テキスト①とプリントを使って説明 電気二種筆記試験配電・屋内配線分野問題の理解度を小テストで確認。 準備学習：①屋内配線 P79～P109まで予習			
4	配線設計 ・幹線的设计 ・分岐回路的设计	方法：テキストとプリントを使って説明 電気二種筆記試験配電設計分野問題の理解度を小テストで確認。 準備学習：①屋内配線 P79～P109まで予習			
5	期末テスト ・第二種電気工事筆記試験の内容でテスト	方法：第二種電気工事士過去問題より出題 達成目標：第二種電気工事士筆記試験過去問題60点以上。 準備学習：②P51～P109の抜粋問題とNo.1～4までの履修内容復習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末試験、平常点と必要に応じて提出を求めるレポートを総合的に判断して評価する。 定期等試験90% レポート5% 平常点5% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		各項目ごとに、模擬問題を行うことで習得状況の確認をする。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。 合格基準点に到達するため、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。			
実務経験教員の経歴	電気技術者として、電気設備の現場に4年間係っていた。第一種電気工事士				